

JSA 若手夏の学校 2008 in 京都 1st Circular 2008.7

基本テーマ：研究する意味を問い直そう！

開催日時：2008年9月26日(金)~28日(日)

開催場所：キャンパスプラザ京都 第3会議室(初日)
京都市内の大学関係施設(2日目以降)

参加費：13,000円(予定)

参照先：<http://www.jsa-t.jp/wakate/index.html>

JSA 若手夏の学校 2008 in 京都 1st Circular をお届けします。

若手研究者を取り巻く状況は今、大きく変化しています。「新自由主義」という名の下に進められた改革は、教育・研究の現場にも大きな影響を及ぼしました。業績至上主義が浸透する中で、研究予算の獲得競争が激しさを増しています。また、教員の多忙化は教育面でも困難を引き起こしています。さらに学費の高騰や、奨学金制度の大幅な変更など、若手研究者の研究環境は刻一刻と厳しさを増しています。

この Circular に示されていますように、今年の夏の学校は、そんな状況にある今こそ、自らの研究の理論的な意味と、その研究が社会で持つ意味を、信頼できる仲間と考えなおして見ようという意図に基づき、基本テーマを「研究する意味を問い直そう！」としました。

好評の FW に加え、今回は議論や交流に重きを置いて、企画の検討を進めています。科学と科学者の課題について、若手研究者・院生同士、さらには先輩たちと交流し、語り合える機会にしていきます。

JSA 若手夏の学校 2008 in 京都が大きく成功するよう、各位の積極的なご参加を呼びかけます。

2008年7月8日 夏の学校 2008 校長

※ 8月上旬発行の 2nd Circular にあわせて参加の受付を開始いたします。もうしばらくお待ち下さい。

※単に参加するだけでなく、企画づくりから一緒にしませんか？ 実行委員に加わってくださる院生・若手会員を募集しています。遠隔地でも、メールで議論に参加できます。下記の全国事務局にご連絡下さい。

日本科学者会議

事務局 〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 茶州ビル 9F

電話 03-3812-1472 Fax 03-3813-2363 メール mail@jsa.gr.jp

<http://www.jsa.gr.jp> トップページから夏の学校のページにリンクします

1. タイムスケジュール (予定)

	午前 (9:00~12:00)	午後 (13:00~18:00)	夜 (19:00~)
26日(金)		・オープニング ・フィールドワーク	懇親会 1
27日(土)	・フィールドワーク(まとめの講演会)	・研究交流企画 『院生楽ありゃ、苦もあるさ(仮)』	懇親会 2
28日(日)	・ディスカッション企画 『若手研究者のやりがいと悩み(仮)』	・感想交流 ・エンディング	

※正確なスケジュールは 2nd Circular などで、随時お知らせいたします。

2. 各企画趣旨と内容

フィールドワーク『京都東九条とウトロに行く(仮)』

京都には、戦中に軍需産業の労働者として集められた朝鮮人が住む地域であるウトロと東九条が存在する。戦後、言語の違いや教育機会の喪失のために低所得に苦しめられたこれらの地域も、現在は高齢化が進み、高齢者医療や介護の問題が深刻化している。この場所には、戦後日本の貧困問題、高齢化問題、そして在日問題が凝縮されている。今回のFWでは、これらの地域を訪れ、参加者で考えあうことを通じて、科学者の社会的役割について再考することを意図している。

研究交流企画『院生楽ありゃ苦もあるさ(仮)』

JSAの魅力の一つは学際的な研究交流が出来ることにある。専門に蛸壺化せざるを得ない現在、自身の研究とまったく異なる分野に触れることには大きな意味があると考え。さらに、分野を問わず、修士号・博士号の学位論文作成は、院生共通の悩みでもある。そこで、本企画では、修士論文・博士論文の執筆経験者に話題提供して頂いた上で、各自の研究報告に基づく交流を行いたい。

ディスカッション企画『若手研究者のやりがいと悩み(仮)』

研究者の社会的役割は、研究と教育である。とりわけ近年大学に求められる役割として、教育の重要性が高まっている。それにも関わらず、一般の大学院教育において「教育者養成」が意識的になされているとは言い難い。そこで本企画では、「研究者が果たすべき大学における教育とは何か」ということを、現在すでに大学での研究職=教育職に就いている若手教員に、自らの経験や考えを語ってもらいながら交流したい。